

云ふべきである。

處が株式市價が其邊まで上進して來る頃には、世間の景氣が大分に好くなると共に株式商品の思惑で備けた連中が、亂暴な思惑をするようになる。斯くて比較的浮動株の尠いものを選んで、賣方を踏ませる爲めに煽るとか、總株數の尠いものを聯合して買占めるとかいふ相場上の策戦を試み、結局多數の投資者を其渦中に引込んで、所謂熱狂時代を現出させる。然うなつた時には、最早冷靜な打算は、株價の騰落を支配する力を失ひ、利廻歩合は公債以下に降ることもある。其處で新規に發行された既設會社の増資株に對し、何十圓といふプレミアムが付いて來る。會社經營者にして見れば資本を集めるのに、之れほど好い機會はない。其處で既設會社が競ふて増資するのみならず、新規に會社を設立するものが續出して、資本の供給力を無視した如き膨大な計畫が出來上る。算盤を唯一の相談相手とする筈の經濟界に、此の如き亂暴な事態が

出現するのは相率ひて目前の利益を漁るからである。此の如くにして投資者は損害を被り、企業家は苦勞を重ね、ばならぬ、自業自得とは云へ、如何にも智慧の無い話である。

(三) 事業本位の打算

新企業計畫の打算は、常に事業そのものを基本として行はねばならぬ、即ち(一)生産費と市場價格との較差ミ、(二)生産貨物の將來に於ける需給關係とを計算の基礎にせねばならぬ。株式が拂込額以上に賣買されるからとて、必要以上に設備を擴張したり 資本を増額したりすれば、折角順調に進捗してゐる事業全體を破壊する、日本紙器、東京絹毛、東京瓦斯電工の如きこの適例であり、日本郵船の如き内容の充實してゐた會社すら、第二回増資の結果として、其後の經營に困難を感じるに至つた。之

に反して事業本位で擴張を内輪に止めた鐘淵紡績。大日本麥酒の如きは、不況期にも三割以上の高率配當を行ふて、多額の鎖却積立を剩すことが出来た。企業濫興の際には、他の同業者が盛に手を擴げるから、自分の會社だけが警戒してゐても、生産設備過大の弊は避け得ない。随つて他社の擴張するときには、その仲間入りをして置かねば、將來生産制限の行はる、際に、全能力の比例に従つて、機械の運轉を停止せざるを得ず、結局不利な位地に立たせられると云ふかも知れぬ。併し、況期に堅實に經營された會社と、無暗に擴張された會社とは、反動期に於ける競争力が違ふから、他社が生産制限をする場合にも、必ずしも同じ態度を執る必要がない。最近の不況期に於いて紡績會社間に操短協定の成立しなかつたのや、モスリン製織制限の場合に、日本毛織が除外例を要求し得たのは、その實例とすることが出来る。

今の處、利己的打算を基調とする競争に依る以外に、物資の需要と供給とを、圓滑

に適合させて往く方法はない。利己心の過度の發動によつて、屢需給の不權衡を惹起すことは云へ、それは次の適合状態を作出す過程中に於ける一時的錯誤であつて、長期に亘つて大觀すれば、常に需要の超過してゐる貨物に、資本と勞力とが振向けられる生産設備過大の犠牲となつて苦しんだ企業家も、その計畫が社會的必要に順應してゐる以上、反動の法則によつて過去の損失を償はるゝ時が来る。此の如くにして全産業界を通じて、利潤は平準に歸すべき筈のものである。唯それ企業利潤の發生は、社會的平均以下の生産費で、貨物を供給し得るものにのみ限られるから、企業計畫の根本に間違があれば、その事業は永久に浮ぶ瀬がない。歐洲大戰に伴ふ需要の急増に誘はれて、製鐵造船事業を企てたものは、當初から此打算を謬まつてゐた。假りに將來それ等の事業が、普通以上の利益を收める時が來るとせば、何人も豫期せざりし新事情の發生に由るのであらう。此の如きは純粹の偶然所得であつて、企業計算の範圍には

入れ難いものである。

—(三九四)—

(四) 資本銷却の必要額

生産に必要な固定資本即ち機械建物器具の類は、何れも年月の経過につれて、其効用を失ふ。或る物は二十ヶ年、或る物は三十ヶ年といふ風に、其價值を失ふ時期が略ぼ決まつてゐる。随つてそれだけは、是非とも毎年銷却して往かねばならぬ。若しその銷却を怠れば、それだけ資本を喰込んで往くことになる。斯ういふ事は、今更めて説明する必要もないのだが、我國に於ける諸會社の實況を見れば、往々此明白な道理を無視して、無理な配當をしてゐるものがある。曩きに屢説明した如く、我國の通貨は明治初年以來次第にその價值を低下して來たので、銷却が十分に行はれない設備でも、時價に換算して必ずしも高くないものがある。此事實によつて蝸配當の形跡が蔽

はれて株主や債権者を安心させてゐるが、眞面目に銷却を行ふて來た會社と比較するとき、競争力の相違が明白に現はれる。外國同業者に比べて、その差が甚しいものは常に輸入品の壓迫を被り、政府の力に依頼して關稅を引上げて貰ふて、僅かに釣合を保つようになつても、數年間經過する中に、再び元の窮狀に陥る。此の如くにして産業の健全なる發達が行はるれば、寧ろ不可思議と云はねばなるまい。震災以後に多くの會社は資産評價益を計上して、損失を補填したが、之れも亦蝸配當をしたと同じ事である。

新發明の頻繁に行はれる事業に在つては、機械工場能力の低下以外、新機械、新生産方法の出現に備へる爲めに、特別の銷却又は積立を行はねばならぬ。然らざれば低廉な生産方法が行はるゝに至つたとき、時勢遅くれの生産者として、競争場裡から落伍せねばならぬ。電力事業の如き、製鍊事業の如き、礦山採掘業の如き、特に新競争

—(三九五)—

者の出現に備へねばならぬ。我銅山業が最近關稅の保護を必要とするに至つた如き、米國に於ける銅生産費低下の影響に外ならない。

元來大抵の事業は社會發達の恩恵に浴して、年所を経るにつれて、利益を増大して往くものである。假りに貨幣價值の下落が起らなかつたにしても、堅實に經營されてゐた會社は、信用と經驗との力によつて、新會社よりは有利な位地に立つ筈なのである。それにも拘らず、何十年かの歴史を有する會社の株式市價が、動もすれば額面以下に落つる如きは、全く必要な鎖却と積立とを怠つた結果と言はねばなるまい。貨幣價值が引續いて低落してゐて、而かも市場利率ほどの配當しか出來ぬ會社が多いに至つては、唯々呆れる外はない。

(五) 生産費低下の要件

企業成功の唯一要件は生産費を社會的平準より以下に引下げる事である、それ以外の方法で成功せんとするのは、正道を去つて邪道に入るものである。生産費低下以外の方法で利潤を捻出する手段は、(一)景氣の循環を利用しての投機、(二)社會の發達に伴ふ偶然所得の獲得、(三)貨幣價值の變動による不勞所得の計上、(四)勞働所得の不正なる掠奪、(五)政權を利用しての不當利得等であるが、それ等は皆企業才能の發露と見做すことは出來ない。強いて云へば景氣觀測の巧拙だけは、企業才能の多少を測る一つの標準とすることが出來よう。

然らば如何にせば、他人より低廉に生産し得るか、その第一の條件は、常に最も進歩した生産設備を作り出すことである。第二は最も適當な勞働者を雇傭することである、第三は出來るだけ低利な資本を利用することである。換言すれば實質上最も安い地代、賃銀、利子を支拂ふことによつてのみ、生産費を引下げる事が出來るのであ

る。理論上から云へば、土地、機械、勞力、資本の其効用の大小に従つて評價されるから、他人より割安のものを利用する機會はない筈である。併し實際の状況を見ると決して然うでない事が判る。或る事業家が常に一割の利子を支拂ふてゐるのに、他のものは八朱しか負擔してゐないといふ如き現象は、到る處に發見される。殊に勞力の利用に至つては、同じ人間を同じ仕事に使ふても、勞働組織の巧拙や、監督方法の良否や、使用人員の配置等によつて、甚しい差を生ずる。多くの經濟學者は總ての企業家が同じ能力を持つといふ假定の下に、利潤獲得の不當を説くが、それは同じ一聯隊の兵士なれば、何人が指揮しても、同じ力しか示さぬといふのと同様である。若し此假定が成立つならば、ナポレオンを軍事上の天才といふことは、全然意味を爲さない。我産業界の最大缺陷は、此種の天才の出現しない事である、それが爲めに常に外國同業者の跡を遂ふてゐるのである。

經濟動態の研究(終)

大正十四年十二月二十日印刷
大正十四年十二月廿五日發行

定價二圓五拾錢

著者 東京市麴町區三年町二番地
安田與四郎

發行者 東京市神田區美土代町二ノ一
中村德二郎

印刷者 東京市牛込區西五軒町二九
溝口榮



發行所

東京市神田區
美土代町二ノ一

白揚社

振替東京二五四〇番

經濟動態の研究

申込者

貴店發行書籍の新刊通知に預り度
此段申込候也

安田與四郎氏著

四六判箱入
三百有余頁

景氣不景氣論

定價金貳圓也
送料金十七錢

理論上から經濟上の動的方面を説いたのは「動態經濟の研究」であるが、之と並んで日々の實際方面から財界の恐慌と回復——所謂景氣不景氣の真相を書いたものは本書である。我國數十年來の財界の實際と、歐米の新學説とを參酌し、安田氏が年余の努力を傾注したる全く神入の文字にて財界空前の文獻たるを失はない。今や景氣は除々に回復しつありと云ふが、果して然るや否や、本書に一度觸れたるものは其の名刀の如き批判に始めて景氣循環の真相を知り、投資上の根本知識を掴むであらう。

東京市神田區
美土代町二丁目一番地

白揚社行

郵便はがき

切手を
はるごと

弊社では是から社會問題や經濟問題の書が續々出来る豫定ですから本書の讀者諸君には發行早々一々御知らせしたいと存じます。何卒左記の葉書に依つて御申込み下さい。御住所姓名さへ伺つて置いたなら種々の便宜ある事と思ひます。之は是からの本の定價を安くする一助ともなる事ですから是非御願ひ致します。

546
74

終

